

# 令和6（2024）年度 生涯学習・社会教育関係職員研修④ 実施報告

実施日：令和6年7月3日（水）

本研修では、新たに生涯学習・社会教育関係職員として配属された方々が、業務を遂行する上で必要となる社会教育行政に関する基礎的知識や学習プログラムの企画・立案の技術等を学びます。第4回は総合教育センターに集合し、31名の方が受講されました。

## ○説明「受講者の学習効果を高め、変容を促すプログラムとは」 総合教育センター職員

学習プログラム開発における基本的な理論や手法について説明しました。今後の業務の中で、実際に学習プログラムを立案することを想定し、諸計画と学習プログラムの関係性、構成する要素（どのようなことを目的として、どのような目標をもって、どのような活動を、どのような順序で行って、どのような学習成果を生み出すのか）、そしてPDCAサイクルの意義などについて確認しました。特に、社会教育行政職員として、「学び」で終わることなく、学習者の意識や行動の「変容」を想像して、体系的な学びとなるプログラムを立案する重要性について確認しました。



## ○演習「学習プログラムを企画しよう」

総合教育センター職員

今回は、例示された連続講座の学習プログラムをブラッシュアップする活動を行いました。要点を押さえて学習プログラムを見直すために、点検シートを活用しました。演習は、個人ワークからグループワークに広げ、最後は各グループが作成したプログラムを共有するという流れで行いました。受講者は、説明の内容を踏まえながら、例示された学習プログラムは、学習目的が達成されるための活動構成になっているか、学習にストーリー性（系統性）があるかなど点検シートと照らし合わせながら、個人及びグループでじっくりと時間をかけて個別事業計画の見直し・改善をしました。グループで共有することをおして、様々な視点から講座を捉えることができ、学習プログラムに深まりが見られました。さらに、連続講座の中から一日を取り上げて、詳細な実施計画を作成しました。最後に、各グループの学習プログラムを見て回り、学びの分かち合いを行いました。



## ☆受講者の声（アンケートから）

- ・何を目的に、この講座を企画・立案するのかという最終目標を見失わないように内容をつめていくことが大切だと感じた。
- ・講座の組み立て方や受講する地域の方へのアプローチ、講座修了後のつながりについて、今後の講座づくりで生かしたい。
- ・同じ仕事に関わる方々との交流をとおして、仕事へのモチベーションが高まったように感じる。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで  
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp